

ベビーシッターマッチングサイトを介した依頼した託児中に発生した2歳男子死亡事故を受けて

～「高かろう良かろう」でも「大手シッター会社や有資格者が安心」でも「ネットは怖い」でもない～

報告：親子の生の声を聞いて！子育て支援に必要な要件とは

先日の痛ましいベビーシッターの意見を受けて、現役子育て世帯を集め、支援サービスを活用せざるを得なかった実体験や、実体験を通じて知った課題などを共有しあうと共に、厚生労働省から発表された「ベビーシッター利用時の留意点」をはじめとする託児支援利用に関するガイドラインや、有識者や専門家による価格と支援クオリティが比例するかなのような数々のステートメントを踏まえたパネルディスカッション及び参加者を交えた討論会をマスコミ誘致の上、3月25日（火）10時より東京都内にて実施。パネリストには当社代表の甲田恵子のほか、元幼稚園教諭でAsMama ママサポーター（※）を代表して市川理恵子、社労士兼無認可保育園「フェアリーランド」経営 菊池加奈子が参加。参加者側にはワーキングママと専業主婦、元幼稚園教諭、ママ同士の地域の頼り合い活動に取り組む団体代表者等が参加した。

□象徴的意見

- ・子育てに追い詰められた経験は会場内子育て経験者全員が挙手。親の就労状況や子どもの成長段階に関わらず24時間365日いつ助けてほしいと思う状況が来るかわからない中、既存の公的支援サービスの場合は原則事前予約制だったり、空きがなかったり、利用規定が厳格だったりが必要に応じて利用できない場合が多く、民間支援サービスの場合は高額だったり保育者への信頼に欠くことから利用した経験がない人が多い。
- ・託児要件として「身内以外なら同じような年齢の子がいる親なら安心して預けられる。」「子どもがなついている大人なら預けたい」という声への賛同者が多数いた。
- ・「認可だから安心で無認可だから不安、といった質の違いはない。」「シッターが一概に保育のプロとも限らない。そのため、託児支援者の質や子どもとの相性は実際に会い、子どもとの接し方を見て判断する必要がある。」とパネリストからの意見。
- ・認可保育園は児童福祉法に則り、衛生管理や健康管理など管理運営が徹底されている一方、規制づくしなための使いにくさを感じる親も多い。今回の事件等を受けて、保育に関する規制等が強化され支援先が限定されたりすれば今以上に制限範囲内での託児しか利用できなくなってしまうことを懸念するワーキングマザーの声。
- ・シッター等多様な支援サービスを活用した小学二年生女子の意見として、「知らない人が迎えに来た時は怖くて嫌だった。いつもと違う保育園も怖くて嫌だった。でも友達のおうちに行っていた時は楽しかった」
- ・既定の公的支援で間に合わない託児ニーズに備えて支援先をネット等で探す人は多く、複数の託児支援サービスに登録だけはしているという人も少なくなかった。（利用経験者は少数）
- ・就労のため等、緊急ニーズでシッターや夜間保育を利用したところ、外国人保育士が大勢の子どもを見ているような現場を目の当たりにしたり、事細かに保育の仕方などを電話で聞いてくるシッターにあたったことがある経験者からは「その時はとにかく子どもの預け先が必要だった。劣悪な託児を目の当たりにして初めて、子どもにとって安心して過ごせる場所は保育施設でもなければ高額な支援サービスではなく、一緒に過ごす人や環境だと思った。子どもにとって安心な場所は値段とは関係ない」という意見があった。以上

◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

株式会社 AsMama (<http://asmama.jp>) 広報担当 ✉ pr@asmama.jp ☎ : 045-263-6433

参考：3月22日リリース

～安心安全で気兼ねの要らない共助社会をめざして～
子育て世帯の生の声！必要な支援を考える討論会

3月25日 10時～12時@東京海員会館

今月3月16日に発生した、ベビーシッターサイトを通じて託児依頼中に発生した痛ましい2歳男子死亡事故を振り返り、こうした事件を二度と繰り返さないためにも、子育て世帯の実情と、支援者に求める要件を赤裸々に語り合う討論会を、顔見知り同士が安心して気兼ねなく頼り合える社会づくりに取り組むAsMama主催にて行います。是非、**報道関係者の皆さまにおかれましては、子育て世帯の実態と切実な支援に求める要件に関する生の声をご取材頂きたくご案内申し上げます。**なお、ご取材希望の方は人数把握の関係上、事前にご一報いただくと幸いです。

場所：東京都海員会館（東京都中央区晴海3-7-1） 第一会議室

日時：2014年3月25日（火） 10時～12時

参加対象者：支援依頼ニーズがあるワーキングママ、支援依頼ニーズがある専業主婦、支援希望者等

以上

※AsMamaの取組みと子育てシェアについて

昨年度は年間400回超の地域の親子交流イベントを約100社の企業と協同しながらイベント開催に至る過程やイベント現場を通じて顔の見える関係を創りつつ、『子育てシェア（送迎や託児支援が必要な時に安心して頼れる親子ともによく知る友人・知人の中から支援希望者を気兼ねなく素早く見つけれられるオンラインサービス。万一の事故には最高5,000万円までの賠償責任保険が全利用者に適用される。登録料や手数料等一切かからず1時間500円～700円の謝礼を依頼者が支援者に現金かクレジットカードで払える仕組み。）の普及に努めています。

身近な支援者が見つからない場合は、AsMamaが本人確認をし、研修・訓練を受けた地域の子育て支援リーダー的存在の「ママサポーター」たちが支援候補者として立候補しますが支援依頼者との面識が浅い場合は事前面談を必要としています。支援依頼者と支援者は従来からの知人同士であることが前提ですが、**安全性を考慮して支援依頼が成立した時点で双方にのみ個人情報年共有される仕組み**になっています。

2013年日経ソーシャルイニシアチブ大賞ファイナリスト、同年経産省主催「新事業創出のための目利き・新事業創出等事業」に採択。2014年ジャパンベンチャーアワードにて「社会貢献特別賞」受賞他、受賞歴メディア掲載歴多数。

◆◆◆ 本リリースに関するお問い合わせ ◆◆◆

株式会社 AsMama(<http://asmama.jp>) 広報担当 ✉ pr@asmama.jp ☎ :045-263-6433